海――想起のパサージュ

イルマ・ラクーザ　多和田葉子　朗読・対談

報告　山口裕之

イルマ・ラクーザさんを総合文化研究所にお迎えするのはこれが二度目、そして多和田葉子さんは三度目となる。前回は、五年前の二〇一三年十一月に、やはり多和田とラクーザの二人による朗読会「もっと海を！　Mehr Meer：ヨーロッパで多言語世界の文学を考える」を行っていた。「もっと海を！(Mehr Meer)」というのは、ラクーザさんの二〇〇九年の自伝的作品の標題であり、この五年前の朗読会のときにも、『もっと海を』のなかから三編をラクーザさん自身が選んで、著者によるドイツ語のテクストと、山口裕之と学生たちによる日本語翻訳の両方が朗読された（『総合文化研究』第十七号、九十－九十七頁）。今回のラクーザさんの来日は、この朗読会の主催者でもある津田塾大学教授・新本史斉氏（新本史斉科学研究費基盤研究（C）主催）による『もっと、海を――想起のパサージュ』の翻訳出版にかかわるセレモニー出席のためでもあった（メルク「かけはし」文学賞受賞）。朗読会のタイトルは、今回翻訳が完成した著作の標題にかなり近いものなのだが、朗読された作品は『もっと、海を』とともに、「海」につながるラクーザさんの他の作品、そして多和田さんの著作から一篇が選ばれた。

あらためてイルマ・ラクーザさんを紹介したい。ラクーザさんは、ハンガリー人の母とスロヴェニア人の父のあいだに生まれ、ブダペシュト、リュブリャーナ、トリエステで幼年時代を過ごしたのち、チューリヒに移住している（このとき五歳）。チューリヒ大学、パリ大学、レニングラード大学で学び、フランス文学、ロシア文学を専攻。こういった言語環境のなかで自己形成を行なっていったラクーザさんは、驚くほどの多言語話者であり、ドイツ語での執筆活動（エッセイ、小説、詩、論文など）の他、フランス語（マルグリット・デュラス）、ロシア語（ツヴェターエワ）、ハンガリー語（ナーダシュ・ペーテル）、セルビア・クロアチア語（ダニロ・キシュ）をはじめとする傑出した文学翻訳を精力的に進めてきた。日本語とドイツ語の二つの言語で、そして言葉の境界を越えてゆく感覚のなかで創作活動を続けている多和田葉子氏については、ここで紹介するまでもないだろう。国内の主要な文学賞を軒並み受賞し、この朗読会の一年半ほど前、二〇一六年十一月にはドイツのクライスト賞を受賞。二〇一八年度の全米図書賞翻訳書部門の受賞（『献灯使』）は記憶に新しいが、それはこの朗読会より後のことである。

この朗読会は、全体で大きく二つの部分から構成されていた。第一部では、『もっと、海を』から「我読む、ゆえに我あり」「音楽」「ヤヌシュ」他、四つのテクストが選ばれ、それぞれドイツ語ないしは日本語（それぞれ別言語のスライド提示）で

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

朗読が行われた。第二部では、多和田葉子のドイツ語作品 Ein Balkonplatz für flüchtige Abende. Konkursbuch Verlag, 2016（『つかのまの夕べのためのバルコニー席』）から「序幕」と「最初のセレナーデ」（ドイツ語）、そして、山口が翻訳を進めつつあるイルマ・ラクーザの短編集 Einsamkeit mit rollendem „r“. Literaturverlag Droschl, 2014（『転がる r のある孤独』）から「ミシィ」（日本語＋ドイツ語）が朗読された。

総合文化研究所が完全に一杯になる聴衆、そしてラクーザさんの作品を日本に紹介した二人の翻訳者（山口は五年前の朗読会の後、ラクーザさんのエッセイ『ラングザマー』の翻訳を二〇一六年に刊行）が一緒に行う司会と朗読、そして越境文学のあり方をまさに体現する、友人同士の二人の作家の和やかな会話、これらすべてが会場の雰囲気を終始、楽しく活気に満ちたものとしていたように思われる。第一部と第二部のそれぞれの終わりに質疑応答の時間を設けていたが、ここでの質問を足がかりとして、ラクーザさんと多和田さんのあいだでの、また司会を務める二人の翻訳者たちとのあいだの楽しいやりとりが交わされた。会の終了後に多和田さんは、今日はとても楽しかったと、とても満足そうに私におっしゃっていた。朗読会は、声が実際のかたちをとり、言葉が生み出されてゆく場である。この朗読会は、かなり成功したセッションであり、幸せな時間に満たされた場であったように思う。

総合文化研究所共催朗読会「海 ―― 想起のパサージュ」
二〇一八年四月十一日（水）

主催：新本史斉 科学研究費基盤研究（C）
共催：東京外国語大学総合文化研究所
イルマ・ラクーザ（作家・翻訳家）
多和田葉子（小説家・詩人）
コメンテーター：新本史斉（津田塾大学）
司会：山口裕之（東京外国語大学）